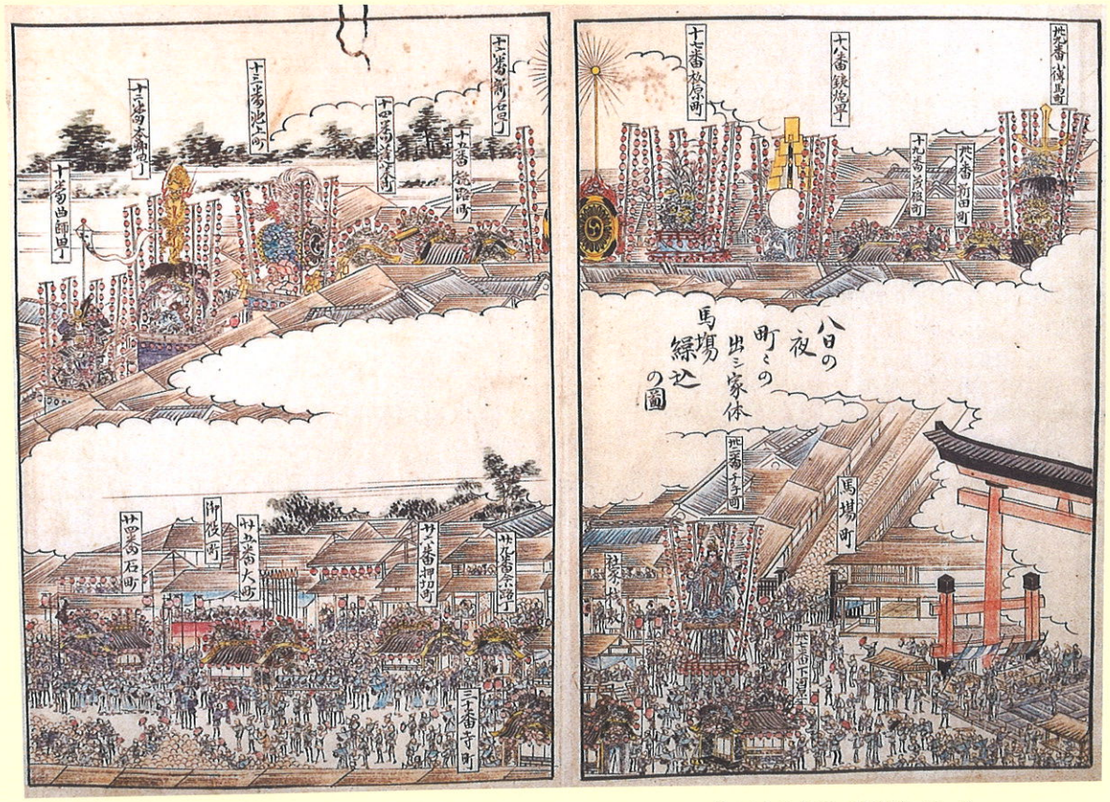
宇都宮文化財マップ

―城下町うつのみやを訪ねて―



宇都宮大明神祭礼図
市指定文化財（宇都宮市 個人所蔵）

宇都宮市教育委員会

【二荒山神社】 E・6

二荒山神社拝殿［平成31年3月29日　県指定］

神楽殿［平成31年3月29日　県指定］

鉄製狛犬［昭和10年2月14日　国認定重要美術品］

二荒山神社は、宇都宮の中心市街地にあり、駅前大通りに南面して鎮座します。

主祭神は豊城入彦命。宇都宮大明神・下野一ノ宮とも呼ばれ、藤原秀郷、源頼朝、徳川家康など、多くの武将から崇拝されました。国の重要美術品の「鉄製狛犬」「三十八間星兜」を所蔵しています。１０月２１日の例大祭の付祭りとして菊水祭が行われます。平成３１年３月には、本殿・拝殿・女体宮・神楽殿・神門・東回廊が県指定文化財に指定されています。

石段両脇にある江戸時代に造られた石垣には、大谷石が使われており、日本遺産「大谷石文化」の構成文化財になっています。

鉄塔婆【清巌寺】 E・8

この鉄塔婆は、鎌倉時代終わりころの正和元年（1312）、宇都宮８代城主貞綱が、亡き母の13回忌の供養のために鋳造し奉納したものです。表面は梵字や阿弥陀三尊、文字が浮き彫りになっています。鉄製の塔婆は全国的に類例がなく、大変貴重なものです。江戸時代終わりころの嘉永２年（1849）暴風雨によって三つに折れたので、明治44年（1911）に修復しました。その後、腐食が進んだので、平成８年（1996）に保存処理を施しました。

［昭和25年8月29日　国指定］

旧篠原家住宅 F・8

篠原家は奥州街道口に店を開いていた豪商で、江戸時代から第二次世界大戦までは醤油醸造業・肥料商を営んでいました。明治28年（1895）に建てられたこの店蔵は、店舗と住居部分を一体化した土蔵造りになっています。住宅の一階部分の両側には、厚さ約8cmの大谷石が貼ってあり、この店蔵の特色になっています。帳場の奥に約45cm角のケヤキの大黒柱があります。これは二階の大広間（20畳敷き）の床柱を兼ね、さらに棟木まで延びているのは、建築的に大変珍しいものです。全体的によい材料を贅沢かつふんだんに使っています。

〈日本遺産「大谷石文化」の構成文化財〉［平成12年5月25日　国指定］

銅鐘【清巌寺】 E・8

この寺には、江戸時代の万治３年（1660）に造られた鐘がありましたが、火災によって破損しました。そこで寛延４年（1751）、今小路町の小牧時敏が施主となり、宇都宮の鋳物師戸室元蕃に鋳造させたのがこの銅鐘です。口径に比べて鐘身がやや高く、すんなりとした形が美しいのが特徴です。また、市内で最も美しい音色であったので、第二次世界大戦中の供出から免れたといわれています。

［昭和63年3月22日　市指定］

木造阿弥陀如来立像【浄鏡寺】 E・6

この像は、平安時代中期から後期の藤原時代の和様彫刻の特徴が見られる、12世紀後半の仏像です。市内に所在する平安時代の仏像は数少なく、浄鏡寺の本尊として本堂に安置され、保存状態・保管体制とも良好です。この仏像は、昭和20年（1945）の宇都宮大空襲の際に前の本尊が消失したため、同じ浄土宗の清巌寺より移座されたものです。なお、市内所在の平安時代の仏像彫刻には、大関観音堂の「木造聖観音菩薩立像」（県指定）、能満寺所蔵の「木造薬師如来立像」（市指定）、持宝院所蔵の「木造不動明王坐像」（市指定）、慈光寺所蔵の「木造阿弥陀如来坐像」（市指定）があります。

［平成17年5月20日　市指定］

※拝観には，お寺の許可が必要です。